

一般社団法人 日本原子力学会
第 90 回 標準委員会 議事録

I-1 日 時：2022 年 12 月 7 日（水）13：30～17：35

I-2 会議方式：Web 会議

I-3 出席者（敬称略）

（出席委員）山本委員長，中村副委員長，西川幹事，石川，牛尾，岡本（15 時 30 分まで），小澤，木倉，黒田，越塚，酒井，清水，関村，高田，高橋，竹山，田中(正)，田中(裕)，戸澤，成宮（14 時から），松井，椋木，山口，山野（24 名）

（代理出席）鬼沢邦雄（岡本委員代理，15 時 30 分から）（1 名）

（欠席委員）井口，宮野（2 名）

（常時参加者）佐々木，篠田，鈴木（3 名）

（欠席常時参加者）藤澤（1 名）

（オブザーバ）志水雄一，前田哲宏（三菱重工業）（2 名）

（説明者）【リスク専門部会 地震 PRA 作業会】

根岸幹事，猪股委員，高橋委員，藤岡委員

【リスク専門部会 JIWG】川口コーディネータ

【システム安全専門部会】鬼沢副部長

【システム安全専門部会 PLM 分科会】中川幹事，榎崎常時参加者

【システム安全専門部会 水化学管理分科会】河村主査，宮澤幹事，長嶺常時参加者

【システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会】松本副主査，倉本幹事

【基盤応用・廃炉技術専門部会 放出源の有効高さ評価分科会】

佐田副主査，渡辺幹事，岡林委員

【基盤応用・廃炉技術専門部会 放射線遮蔽分科会】坂本主査

【原子燃料サイクル専門部会】藤原幹事

【原子燃料サイクル専門部会 LLW 処分安全評価分科会】竹内幹事，中居委員，山岡委員

【原子燃料サイクル専門部会 LLW 埋設施設検査方法分科会】山田幹事，斉藤常時参加者

【原子燃料サイクル専門部会 LLW 埋設後管理分科会】梅原幹事，千々松委員，関口委員

【標準活動基本戦略タスク】西川主査，湊幹事，鬼沢委員，清水委員

【原子力安全検討会】高田主査

（延べ計 31 名）

（事務局）大沼，正岡，牧野，平野（4 名）

I-4 配付資料：（議事録末尾に一覧を掲載）

II 議事内容

事務局から，開始時点で委員(フェロー委員含め)26 名中，開始時点で 23 名の出席があり，委員会成立に必要な定足数（18 名以上）を満足している旨の報告があった。その後，会議中に出席の委員があり，最終的に 24 名の出席となった。

1. 前回議事録の確認 (SC90-1)

前回議事録(案)は既に配布・修正されていることを確認し、読み上げは割愛した。

2. 人事について (SC90-2-01~2-03)

資料 SC90-2-01, SC90-2-02 に基づき、標準委員会、専門部会の人事について以下の提案及び報告があった。

a. 標準委員会

①理事会による委員選任承認の確認

田中 正和 九州電力 2022.9.29 理事会承認

②理事会による委員再任承認の確認

関村 直人 東京大学 2022.9.29 理事会承認

③委員再任の決議

山本 章夫 名古屋大学 2023.03~2025.02

竹山 弘恭 中部電力 2023.03~2025.02

椋木 敦 日揮 2023.03~2025.02

山口 献 東京電力ホールディングス 2023.03~2025.02

理事会による委員の選任・再任承認が確認され、また、審議の結果、委員の再任が決議された。

b-1. リスク専門部会

①委員再任の承認(決議)

高田 毅士 日本原子力研究開発機構 2023.03~2025.02

竹内 裕行 東芝エネルギーシステムズ 2023.03~2025.02

丸山 結 日本原子力研究開発機構 2023.04~2025.03

b-2. システム安全専門部会

①委員退任の確認

大川 富雄 電気通信大学 2022.11.30

②委員再任の承認(決議)

杉野 亘 日本原子力発電 2023.03~2025.02

河村 真一郎 東芝エネルギーシステムズ 2023.03~2025.02

北島 庄一 電力中央研究所 2023.03~2025.02

③部会長選任の承認(決議)

岡本 孝司 東京大学 2023.02~2025.01

b-3. 基盤応用・廃炉技術専門部会

①委員退任の確認

萩原 剛 東芝エネルギーシステムズ 2022.10.30

日比 宏基 三菱 FBR システムズ 2022.10.31

松本 昌昭 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ 2022.10.31

②委員選任の承認（決議）

黒川 登	安藤ハザマ
近藤 直樹	三菱総合研究所
坂下 嘉章	東芝エネルギーシステムズ

③委員再任の承認（決議）

石川 顕一	東京大学	2023.02～2025.01
北島 庄一	電力中央研究所	2023.03～2025.02

b-4. 原子燃料サイクル専門部会

①委員退任の確認

元辻 弘行	原子燃料工業	2022.11.30
-------	--------	------------

②委員選任の承認（決議）

井出 秀一	原子燃料工業
-------	--------

③委員再任の承認（決議）

浅野 隆	日立 GE ニュークリア・エナジー	2023.02～2025.01
小松原 勝	東芝エネルギーシステムズ	2023.03～2025.02

④常時参加者解除確認の確認

浅見 光史	海上・港湾・航空技術研究所	2022.11.02
-------	---------------	------------

b-1～4 の各専門部会について、委員の退任等が確認され、委員の選任・再任が承認された。

2.2 標準活動基本戦略タスクの人事

事務局から SC90-2-03 に基づき、標準活動基本戦略タスクの人事（常時参加者 1 名の新任）について説明があった。

3. 審議事項

(1) 【報告・審議】（標準委員会決議投票結果）

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補2）” 標準原案に関する標準委員会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について

（担当：事務局，システム安全専門部会 PLM分科会 中川幹事，榑崎常時参加者）

システム安全専門部会 PLM 分科会 中川幹事，榑崎常時参加者から SC90-3-01-1～4 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，1 か月間の公衆審査に移行することが決議された。

特に質疑，コメント等は無かった。

(2) 【報告・審議】（標準委員会決議投票結果）

“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：202X” 標準原案に関する標準委員会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について

（担当：事務局，基盤応用・廃炉技術専門部会 放出源の有効高さ評価分科会 佐田副主査，渡辺幹事，岡林委員）

事務局から SC90-3-02-1 に基づき，題記に関する決議投票の結果可決となり，賛成で 3 名の委員から意見があったことが報告された。引き続き，基盤応用・廃炉技術専門部会 放出源の有効高さ評価分科会 佐田副主査，渡辺幹事，岡林委員から SC90-3-02-2～4 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，1 か月間の公衆審査に移行することが決議された。

特に質疑，コメント等は無かった。

(3) 【報告・審議】（本報告）

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補3）” 標準原案に関する本報告について

（担当：システム安全専門部会 PLM分科会 中川幹事，櫛崎常時参加者）

システム安全専門部会 PLM分科会 中川幹事，櫛崎常時参加者から SC90-3-03-1～2 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，30 日間の決議投票に移行することが決議された。

（投票対象：SC90-3-03-2）

主な質疑，コメント等は次のとおり。

Q：従来は IAEA の IGALL との比較を実施してきたが，今回は ATENA レポートから米国 NRC の GALL-SLR の知見をとり込んでおり，IGALL ではなく米国 GALL を比較対象とする方針が変わったのか？

A：方針変更ではなく，元々 GALL-SLR も分科会として確認しており，当該事象は国内では発生事例がなく，また，発生が想定される環境ではないとして記載不要と判断していた。今回，ATENA レポートで GALL-SLR と PLM 実施基準（附属書 D）との比較の差異として提言があったので追加した。

C：ATENA レポートのフォローはそれでよいが，これまで PLM 標準は IGALL を取り込むと同時に IGALL 側へ発信もして，相互の関係を構築してきたが，米国 GALL はとり込むだけなのか？我々は日本の PLM 標準で世界の IGALL をリードしてきており，米国 GALL を日本でもとり込んだことにより，発行予定の PLM 実施基準 2021 年版の英語版では標準の意義として，今までと違った発信が必要と考える。PLM 標準が良くなるという意味では的確な活動だと思うので，今後，英語版発行の際にその点を補足していただきたい。

A：英語版での補足，発信を行っていく。

Q：NRA の原子炉安全専門審査会及び核燃料安全専門審査会の技術情報も PLM 標準に取り込まれる仕組みがあるか。

A：電力共通技術基盤での運転経験の検討情報に含まれており，PLM 標準に反映検討が必要な情報は PLM 分科会に入ってくるようになっている。

(4) 【報告・審議】（本報告）

PWR水化学分析標準の新規制定及び改定案に関する本報告について

（担当：システム安全専門部会 水化学管理分科会 河村主査，宮澤幹事，長嶺常時参加者）

システム安全専門部会 水化学管理分科会 河村主査，宮澤幹事，長嶺常時参加者から SC90-3-04-01～16 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，30 日間の決議投票に移行することが決議された。（投票対象：SC90-3-04-02，SC90-3-04-06，SC90-3-04-10，SC90-3-04-14）特に質疑，コメント等は無かった。

(5) 【報告・審議】（本報告）

“低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編：20XX” 標準原案に関する本報告について

（担当：原子燃料サイクル専門部会 LLW処分安全評価分科会 竹内幹事，中居委員，山岡委員）

(5) (6) (7) の 3 件の本報告に先立ち，原子燃料サイクル専門部会 藤原幹事から SC90-3-05-0 に基づき，低レベル放射性廃棄物処分関係の学会標準の全体像（マトリックス）について説明があった。

主な質疑，コメント等は次のとおり。

Q：輸送の欄に，使用済燃料，MOX 燃料等も含まれているが，よいか。

A：同標準に低レベル放射性廃棄物も対象となっているので含めた。

C：このような全体像を示すと，それぞれの標準の位置づけが明確になり，良いプラクティスと思う。

引き続き、標準原子燃料サイクル専門部会 LLW 処分安全評価分科会 竹内幹事、中居委員、山岡委員から SC90-3-05-1～5 に基づき、題記標準について報告があり、審議の結果、30 日間の決議投票に移行することが決議された。（投票対象：SC90-3-05-4）

主な質疑、コメント等は次のとおり。

Q：新規規則が出た後は、旧規則はどうなるか。

A：無効になる。

Q：NRA 技術ノートを反映しているが、この標準と技術ノートとの関係が知りたい。

A：NRA 技術ノートは許可基準規則・解釈や審査ガイドに対する説明を行ったものである。本標準についてはそれらを受けて実際に安全評価を行う方法・手順を記載している。

Q：これらの規制の考え方の妥当性についての議論は専門部会／分科会であったか。

A：特になかった。ただし、単に従っているのではなく、標準改定時に内容の確認を行いつつ抜粋等を行っている。

(6) 【報告・審議】（本報告）

“低レベル放射性廃棄物処分施設の施設検査方法—浅地中処分編：20XX” 標準原案に関する本報告について

（担当：原子燃料サイクル専門部会 LLW埋設施設検査方法分科会 山田幹事、斉藤常時参加者）

原子燃料サイクル専門部会 LLW 埋設施設検査方法分科会 山田幹事、斉藤常時参加者から SC90-3-06-1～3 に基づき、題記標準について報告があり、審議の結果、30 日間の決議投票に移行することが決議された。（投票対象：SC90-3-06-2）

主な質疑、コメント等は次のとおり。

Q：この標準と許可基準規則や NRA 審査ガイドとの関係は、どうなっているか。

A：この標準は許可基準規則の制定を受けて具体的に施設検査を行う方法・手順を記載している。NRA 審査ガイドは許可基準規則第 12 条及び第 13 条に係る規定への適合性を判断するための参考となるものであり、施設検査方法ではなく主に安全評価手法に関する内容であるため参照はしていない。

(7) 【報告・審議】（本報告）

“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻しの方法及び施設の管理方法—中深度処分編：20XX” 標準改定案に関する本報告について

（担当：原子燃料サイクル専門部会 LLW埋設後管理分科会 梅原幹事、千々松委員、関口委員）

原子燃料サイクル専門部会 LLW 埋設後管理分科会 梅原幹事、千々松委員、関口委員から SC90-3-07-1～3 に基づき、題記標準について報告があり、審議の結果、30 日間の書面投票に移行することが決議された。（投票対象：SC90-3-07-2）

主な質疑、コメント等は次のとおり。

Q：昨年度の中間報告から本報告まで期間があったのは、NRA の規則改正への対応か。

A：そのとおりである。

(8) 【報告・審議】（本報告）

“ γ 線ビルドアップ係数：2013” 正誤表について

（担当：基盤応用・廃炉技術専門部会 放射線遮蔽分科会 坂本主査）

基盤応用・廃炉技術専門部会 放射線遮蔽分科会 坂本主査から SC90-3-08 に基づき、題記標準について報告があり、審議の結果、正誤表の発行が承認された。

特に質疑、コメント等は無かった。

(9) 【報告】（経過報告）

“原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X” 標準改定原案に関する標準委員会意見募集で受け付けた意見への対応についての経過報告について

（担当：リスク専門部会 地震PRA作業会 根岸幹事，猪股委員，高橋委員，藤岡委員）

リスク専門部会 地震 PRA 作業会 根岸幹事，猪股委員，高橋委員，藤岡委員から SC90-3-09-1～4 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，本報告へ向けてさらに検討を進めることとした。

主な質疑，コメント等は次のとおり。

C：「重畳」に関しては、色々な標準や活動で使われている用語であり、それぞれで定義が異なっていることから、地震 PRA での定義を解説等で明確にした方が良い。

A：現在、外的事象 PRA 分科会にて外部ハザード選定標準の改定を実施しており、その中で各標準等における「重畳」の利用状況を確認したが、それぞれで定義が異なっていることから、今回改定の地震 PRA 標準の中で「重畳」の定義を明確にしたいと考えている。

Q：今後のスケジュール予定は？

A：本日の報告結果を踏まえ，来年 2 月に専門部会への本報告を実施する予定としている。また、それ以降は、専門部会からのコメント対応状況にもよるが、来年 6 月に標準委員会への本報告を目指している。

(10) 【報告】（標準委員会意見募集結果）

“原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準：202X” 標準改定に関する標準委員会意見募集の結果及び受け付けた意見への対応について

（担当：事務局，システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会 松本副主査，倉本幹事）

システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会 松本副主査，倉本幹事から SC90-3-10-1～4 に基づき，題記標準について報告があり，審議の結果，本報告へ向けてさらに検討を進めることとした。

主な質疑，コメント等は次のとおり。

C：「6.4 スケジュール」に対するコメントについては、計画を立てて工程を立案する上において、最終的に NRA への届出をするなどのゴールに対して、そこから逆引きをして余裕をもったスタートを決めなくてはならないのではというものであった。

A：御指摘の趣旨は、注記においてふれているつもりであるが、ゴールを見据えたスタートの計画を立てなくてはならないという意図をより明確にするような記載を検討する。

C：経年劣化に関するコメントは、設計の古さ「obsolescence」についての考え方を、標準においてしっかり示してもらうことを期待しているものであり、今後とも更なる検討をお願いする。

C：PSR+においては 14 の安全因子でのレビューより、総合的な評価の方がより重要であり、本日の審議を含めても、PSR を PSR+にした理念が薄れているのではという懸念を感じる。海外では PSR をうまく使いこなし、長期運転、ライセンスリニューアルを実施できており、それを国内でもどうやって取り込んでいくのかということが、プロアクティブ評価として何より重要であるが、標準策定時点では PSR+として先取りしていたものが、規制の制約もあって日本だけが遅れてしまっていることが残念。世界がこの 5 年でさらに進んでいることを取り込むなど、改定標準は進展に追いつくものであることを期待する。

A：当初の PSR+の理念を後退させているものではないが、今回の改定では要件自体を大きく変更してはならないものの、附属書、解説において、安全性向上評価届出制度への対応の追記などを行い、国内における狭い範囲の活動に特化させた部分はあると思う。PSR+の理念は褪せないよう、御指摘をふまえた点につき、分科会において記載を精査していく。

C：14 の安全因子でのレビューに加えて、トータルでのリスク評価による総合的な評価によって次の 10 年の安全性向上を計画するというのがプロアクティブの本質だったが、規制側が

それを受け付けるわけではない形で届出制度にしていることとのギャップは大きいものではある。それをふまえたうえで、学会標準としてあるべき PSR+を良い形で示すように検討いただきたい。

(11) 【報告】（正誤表の発行）

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：2022（追補1）” まえがきの訂正について

（担当：事務局）

事務局から SC90-3-11 に基づき、題記標準について報告があり、審議の結果、正誤表の発行について確認された。

主な質疑、コメント等は次のとおり。

Q: 前書きの修正前の Ageing management technical evaluation が正しいように思われるが、technical を削除して変更した理由は何か。

A: 耐震・耐津波安全性への影響評価も含めた評価は、これまでどおり高経年化技術評価であり Ageing management technical evaluation としている。ここでは、附属書 F が耐震・耐津波安全性を除いた安全機能への影響評価だけを対象としているため区別して修正したもの。

(12) 【報告】（協賛）

東京大学・日本原子力研究開発機構ジョイントワークショップへの協賛について

（担当：システム安全専門部会 鬼沢副部会長）

システム安全専門部会 鬼沢副部会長から SC90-3-12 に基づき、題記のシステム安全専門部会としての協賛について報告があった。

主な質疑、コメント等は次のとおり。

C: 重要なワークショップであり、時間の都合がつけば是非参加いただきたい。

(13) 【報告】（趣意書説明）

JCNRMへの参加報告について

（担当：JIWG 川口コーディネータ）

JIWG 川口コーディネータから SC90-3-13 に基づき、題記について報告があった。

主な質疑、コメント等は次のとおり。

Q: IRIDM 関連で、IAEA のガイダンスとは？

A: 別途、確認する。※

※(委員会後の確認結果): IAEA TECDOC-1909, "Considerations on Performing Integrated Risk Informed Decision Making", 2020 (2020年5月発刊)

(14) 【報告】

“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の NRA 技術評価状況報告について

（担当：原子燃料サイクル専門部会 藤原幹事）

原子燃料サイクル専門部会 藤原幹事から SC90-3-14 に基づき、題記について報告があった。

主な質疑、コメント等は次のとおり。

C: NRA は引用している規格については常時参加者・オブザーバとして参加し、発言することができるとしている。今後、NRA から責任ある者の出席については、NRA 内で調整し、連絡する。今回の技術評価は難しかったが、多くの説明を受けてエンドースについて整理できた。今後、有益な進め方となるよう、引き続き対応してほしい。

4. 標準活動基本戦略タスク・原子力安全検討会の活動

(4-1) 【報告】

標準活動基本戦略タスクの報告と論点

(担当：標準活動基本戦略タスク 西川主査)

標準活動基本戦略タスク 西川主査から SC90-4-01-1～3 に基づき、標準活動基本戦略タスクの議事録、標準委員会全体工程、標準運営委員会議事録について報告があった。

(4-2) 【報告】

2022 年度標準委員会の日程について

(担当：事務局)

事務局から SC90-4-02 に基づき、今年度の日程について報告があった。

(4-3) 【審議】

標準委員会審議細則の改定について

(担当：事務局、標準活動基本戦略タスク 西川主査)

標準活動基本戦略タスク 西川主査から SC90-4-03 に基づき、標準委員会審議細則の改定について報告があり、審議の結果、この内容で細則の改定が決議された。

特に質疑、コメント等は無かった。

(4-4) 【報告】

原子力安全検討会の議論状況について

(担当：原子力安全検討会 高田主査)

原子力安全検討会 高田主査から SC90-4-04 に基づき、原子力安全検討会の議論状況について報告があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

(4-5) 【報告】

原子力関連学協会規格類協議会の課題について

(担当：標準活動基本戦略タスク 西川主査)

標準活動基本戦略タスク 西川主査から SC90-4-05-1～2 に基づき、規格類協議会の課題について報告があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

(4-6) 【報告】

3学協会ピアレビューの実施について

(担当：標準活動基本戦略タスク 湊幹事)

標準活動基本戦略タスク 湊幹事から SC90-4-06-1～2 に基づき、3学協会ピアレビューの実施状況について報告があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

(4-7) 【報告】

倫理教育の実施状況について

(担当：標準活動基本戦略タスク 清水委員)

標準活動基本戦略タスク 清水委員から SC90-4-07 に基づき、倫理教育の実施状況について報告があった。

特に質疑、コメント等は無かった。

(4-8) 【報告】

標準委員会企画セッションについて

(担当：標準活動基本戦略タスク 鬼沢委員，成宮委員)

先ず，標準活動基本戦略タスク 鬼沢委員から SC90-4-08-1 に基づき，学会 2022 年春の年会における標準委員会企画セッション「グレーデッドアプローチを適用した廃止措置の在り方」の提案について報告があった。

特に質疑，コメント等は無かった。

引き続き，標準活動基本戦略タスク 成宮委員から SC90-4-08-2 に基づき，学会 2022 年春の年会におけるリスク部会の企画セッション「外的事象に対する原子力安全の基本的考え方の実効的な取り組み」への共催について報告があった。

特に質疑，コメント等は無かった。

5. その他

- ・事務局から、「専門部会等幹事業務，並びに標準委員会事務局業務マニュアル(SM-101)」の制定について紹介があった。
- ・次回は 2023 年 3 月 1 日（水）10 時から開催予定。
次々回は 2023 年 6 月 7 日（水）10 時から開催予定。
- ・今回は最後の出席となる越塚委員から，退任のご挨拶をいただいた。

【配付資料】

SC90-0	第 90 回標準委員会議事次第
SC90-1	第 89 回標準委員会議事録（案）
SC90-2-01	人事について（標準委員会）
SC90-2-02	人事について（専門部会）
SC90-2-03	標準活動基本戦略タスク委員名簿
SC90-3-01-1	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 2）” 標準原案に関する決議投票【SC22-05】の結果について
SC90-3-01-2	【最終報告】“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 2）” の決議投票結果，受け付けた意見への対応及び原案修正について
SC90-3-01-3	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 2）” 案の専門部会意見対応案
SC90-3-01-4	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 2）” 標準原案（完本）
SC90-3-02-1	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX” 標準原案に関する決議投票【SC22-06】の結果について
SC90-3-02-2	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX” 標準原案に関する標準委員会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について
SC90-3-02-3	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX” 標準原案（完本）
SC90-3-02-4	発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準 標準委員会本報告決議投票における意見対応 修正前後比較表
SC90-3-03-1	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 3）” 本報告
SC90-3-03-2	“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X（追補 3）” 標準原案（完本）
SC90-3-04-01	“加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素：202*” 本報告
SC90-3-04-02	“加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素：202*” 改定案（完本）
SC90-3-04-03	“加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素：202*” コメント対応一覧表（案）
SC90-3-04-04	“加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素：202*” 新旧比較表（案）

- SC90-3-04-05 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素：202*” 本報告
- SC90-3-04-06 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素：202*” 改定案（完本）
- SC90-3-04-07 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素：202*” コメント対応一覧表（案）
- SC90-3-04-08 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素：202*” 新旧比較表（案）
- SC90-3-04-09 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素：202*” 本報告
- SC90-3-04-10 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素：202*” 改定案（完本）
- SC90-3-04-11 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素：202*” コメント対応一覧表（案）
- SC90-3-04-12 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素：202*” 新旧比較表（案）
- SC90-3-04-13 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素同位体比：202*” 本報告
- SC90-3-04-14 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素同位体比：202*” 制定案（完本）
- SC90-3-04-15 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素同位体比：202*” コメント対応一覧表（案）
- SC90-3-04-16 “加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－ほう素同位体比：202*” 新旧比較表（案）
- SC90-3-05-0 低レベル放射性廃棄物関連の学会標準（原子燃料サイクル専門部会）
- SC90-3-05-1 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法－中深度処分編：20XX” 標準原案に関する本報告について
- SC90-3-05-2 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法－中深度処分編：20XX” 第 89 回標準委員会報告版からの主な変更箇所について”
- SC90-3-05-3 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法－中深度処分編：20XX” 改定案（第 89 回標準委員会報告版からの変更履歴付）
- SC90-3-05-4 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法－中深度処分編：20XX” 改定案
- SC90-3-06-1 “低レベル放射性廃棄物処分施設の施設検査方法－浅地中処分編：20XX” 標準原案に関する本報告について
- SC90-3-06-2 “低レベル放射性廃棄物処分施設の施設検査方法－浅地中処分編：20XX” 標準改定案
- SC90-3-06-3 “低レベル放射性廃棄物処分施設の施設検査方法－浅地中処分編：20XX” 標準改定案（変更履歴）
- SC90-3-07-1 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻しの方法及び施設の管理方法－中深度処分編：20XX” 標準改定案に関する本報告について
- SC90-3-07-2 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻しの方法及び施設の管理方法－中深度処分編：20XX” 標準改定案
- SC90-3-07-3 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻しの方法及び施設の管理方法－中深度処分編：20XX” 標準改定案（改定前後比較表）
- SC90-3-08 “γ線ビルドアップ係数：2013” 誤記チェックの結果について
- SC90-3-09-1 “原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X” 標準改定原案の経過報告について
- SC90-3-09-2 “原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X” 標準改定原案に関する標準委員会意見募集で受け付けた意見への対応について
- SC90-3-09-3 “原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X” 標準改定原案の現行版と新規標準原案との対比表
- SC90-3-09-4 “原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X” 標準改定（案）
- SC90-3-10-1 “原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準：202X” 標準改定に関する意見募集【SC22-07】の結果について
- SC90-3-10-2 PSR⁺改定に関する意見募集に対する標準委員会コメント対応表
- SC90-3-10-3 PSR⁺改定に関する意見募集に対するシステム安全専門部会コメント対応表

- SC90-3-10-4 “原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準：202X”（案）
 [システム安全専門部会／標準委員会 意見募集に対する標準改定に関する意見募集に対するコメント反映版]
- SC90-3-11 【発行済み標準の訂正】“原子力発電所の高経年化対策実施基準：2022（追補1）”
 まえがきの訂正について
- SC90-3-12 東京大学・日本原子力研究開発機構ジョイントワークショップ 開催要領（案）
- SC90-3-13 JCNRM への参加報告について
- SC90-3-14 原子力学会 L1 放射能評価標準の技術評価の対応状況について
- SC90-4-01-1 標準基本戦略タスク 2022 年度第 3 回議事録（案）
- SC90-4-01-2 2022-2023 年度計画（工程）
- SC90-4-01-3 2022 年度第 2 回標準活動運営委員会議事録（案）
- SC90-4-02 2022 年度標準委員会の日程について
- SC90-4-03 標準委員会審議細則（案）
- SC90-4-03-参考（基本戦略タスク資料 2022-T3-4-3）Webex による委員長及び専門部会長の互選投票方法について
- SC90-4-04 第 40 回原子力安全検討会議事録（案）
- SC90-4-05-1 原子力関連学協会規格類協議会の課題について（電事連資料）
- SC90-4-05-2 優先度分類結果（電事連資料）
- SC90-4-06-1 3 学協会 2022 年度学協会規格ピアレビュー計画について
- SC90-4-06-2 チェックシート（重点レビュー領域+関連レビュー領域）
- SC90-4-07 倫理教育の実施状況について
- SC90-4-08-1 標準委員会企画セッションについて（廃止措置関係）
- SC90-4-08-2 標準委員会企画セッションについて（リスク・外的事象関係）
- SC90参考1 標準委員会委員名簿
- SC90参考2 標準委員会出席状況（80回～89回）
- SC90参考3 標準委員会の活動状況
- SC90参考4 専門部会の活動状況

以 上